

せんだん



富山県立
砺波学園
砺波市福山1164

〈発行責任者〉
松本吉永

<http://www.pref.toyama.jp/1250/kurashi/kenkou/shougaisha/toppage/index.html>



夏季特別体験

魚津水族館
ミラージュランド

砺波学園の現在地

指導課長 干場 雅史

令和5年5月8日をもって新型コロナウイルス感染症が、2類から5類に引き下げられました。令和元年度末の緊急事態宣言、学校の臨時休校、帰省中止、短期入所・日中一時支援の受入縮小・停止…。新型コロナウイルスが学園の普段を一変させました。

世の中は5類相当への移行ということで、「以前の日常」を取り戻すことに躍起です。しかし、5類に移行したからと言ってすべてが元に戻るわけではなく、依然として新型コロナウイルスは存在しており、子どもの中には基礎疾患を有する子、今では当たり前のようになった感染予防対策をとることが困難な子もいます。現在の、当たり前にどう対応していくか、試行錯誤が続いています。

一方で、新型コロナウイルスがすべてを滅茶苦茶にしたか？と問われれば、私自身は「否」と答えます。ソーシャルディスタンスや、三密回避：そんな感染予防の観点からの支援が、発達支援の再検討につながりました。より子どもたち各々に必要なことは何か？どうすればそれが可能か？子どもたちにどうそれを伝えていくか？…そんな試行錯誤を繰り返したことで、コロナ感染者が出た時、クラスター発生となった時も、バタバタと多少の混乱はあったものの、子どもたち、職員の協力のもと、さらなる感染拡大には至らずに、乗り越えることができたと感じます。そしてその経験は確実に今後の子どもたちの成長に、我々職員の子どもたちへの支援に、良い影響を及ぼしています。

コロナ禍のなか、保護者・関係各位におかれましては、学園運営にご協力いただきありがとうございます。学園としては、コロナ禍で得た変化をポジティブに受け止め、子どもの成長（発達支援）と、学園後の生活への移行（移行支援）を軸に、より積極的に支援を提供していきたいと考えております。それには、関係各位のご協力が不可欠です。砺波学園をどうか今後ともよろしく願います。

全体活動

めばえ活動の一環としてミュージックケアやサーキット等をしています。

めばえ活動とは…

わかば寮では児童それぞれに応じた課題を作成し、「できた！」という体験と一緒にできる時間を設けています。

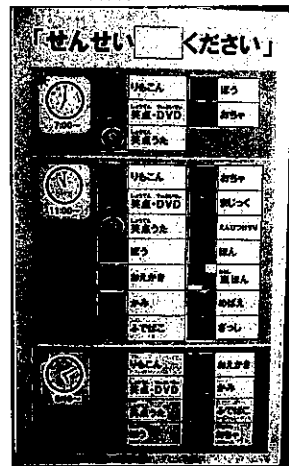
制作や本読みなど、児童が得意とすることをきっかけにできることが少しずつ増えるように支援しています。



わかば寮の紹介

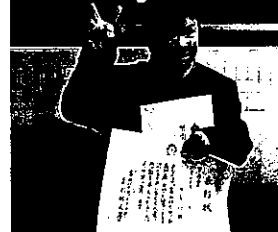
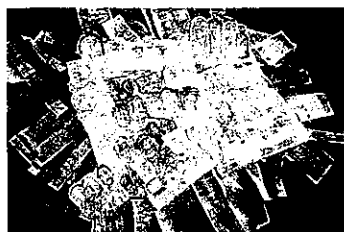
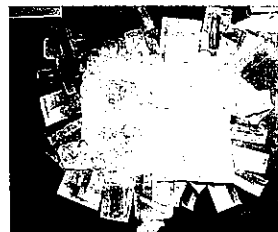
余暇活動

したい遊びや欲しい玩具を伝えられるように居室・共有場所に絵カードや写真を掲示しています。



パイロット展

親指に大きなタコが出来ても描き続ける程、お絵描きが大好きなN君。昨年、パイロット展に応募し努力賞を頂くことが出来ました！某大喜利番組が好きで、出演者の似顔絵や名前(某アイドルグループ名)を毎日のように描いています。折角なら、日頃から描いている絵を活かし、たくさんの「好き」を詰め込んだ作品に作り上げました。



支援の紹介

移行支援部

これまでの移行支援部(訓練部)は義務教育終了後高等部進学を選択しなかった児童や高等部卒業時に新しい受入れ先の準備期間が必要な児童を対象に将来の社会参加を目標に高等部の代替的な指導や生活介護を中心とした支援を実施してきましたが、障害児入所施設に入所する障害児等の新たな移行調整の枠組みの構築のため、学園において、次のような対応を取ることにになりました。

①「15歳〜高等部1年生」までは個別支援計画の短期課題に「移行支援」を設定し、課題や支援目標について整理する。

②「高等部2年生以降及び移行支援部対象児童」については、移行支援計画を策定する。

このような状況に対応するため体制の強化を図り、発達支援チーム(個別支援計画に基づき支援)と移行支援チーム(移行支援計画に基づき支援する)とともに、学園全体の進路担当業務を行う)の2チーム体制になりました。

そのため、両チームを統括し移行支援部全体の管理・運営を行う職員が配置されました。

令和5年度の発達支援チームは療育班女子児童が2名在籍し、移行支援部職員が中心になり日課やカリキュラム等を作成し、移行支援部職員だけではなく、寮全体で移行支援部児童の支援をしています。

また、移行支援チームは移行支援計画に基づき関係機関との連携・協議調整、及び障害児の新たな移行調整の枠組み構築に向けた準備等に取組んでいます。

(長谷川記)

心理的ケア

砺波学園では、令和三年度より心理的ケアがチームとして編成されました。社会的養護を必要とする児童の入所が増加している近年、障害児入所施設の社会的養護機能も重要視されています。本学園でも障害特性のある児童に加え、虐待等の経緯から二次的な課題が見受けられる児童もいます。愛着の課題が考えられる場合もあり、各ケースに合わせた心理的ケアの検討と実施が重要となります。心理的ケアチームとしては未だ手探りの状態ですが、その役割や動きについてご紹介します。

役割としては、児童への心理的支援と職員へのコンサルテーションに大きく分かれます。児童の居住棟とは別棟に心理面接室があり、空間的な区切りを作って面接をしています。心理面接は児童からの相談希望で始まることもあれば、担当職員や主治医からの依頼で始まることもあります。面接内容の守秘義務は遵守しつつも、職員間での情報共有が必要ならば児童には必ず確認をとっています。相談して良かったと少しでも思ってもらえることが大切です。他にも児童のアセスメントのために心理検査を実施したり、児童相談所が関わっているケースでは担当の児童心理司と見立てを共有したりしています。一方で、職員視点での児童の困った行動から関わり方に苦慮している場合は、行動要因やアプローチ方法について職員と相談しています。重度棟の児童に言語面接は難しいため、担当職員へのコンサルテーションを通して心理的支援を実施しています。支援の形に関わらず、丁寧にコミュニケーションをとることが何よりも大切です。

本学園の心理職は心理的ケアだけでなく児童の生活指導も担うため、両立が非常に難しいです。今後も試行錯誤を続けながら、児童と児童に関わる人の心理的ケアに携わっていきます。

(田中記)

砺波学園は創立60周年を迎えました

12月には記念講演会を行いました。

講師には子ども虹情報研修センターから中垣真通氏をお招きし、『ライフステージに応じた親子関係を深める関わり方』の講演をしていただきました。

まだコロナ禍ではありましたが、感染対策をしながらとみなみ東支援学校の教職員の方々や砺波圏域の相談支援事業所の方、そしてZOOMによるオンライン視聴も行いながら参加して頂きました。

愛着形成にはどのような過程があるのか、自信の育ち方は発達の中でどのように変化していくのか。講演会を通して理解を深める中で、改めて子どもたちやご家族への支援について振り返り、学ぶ機会となりました。

この他にも、砺波学園創立60周年記念事業として、60周年記念サイト、記念動画を制作し、砺波学園ホームページで閲覧、せんだん「創立60周年記念号」として発行しました。



保護者会より

保護者会会長

松本 誠

本年度会長に選出された松本です。早いもので砺波学園でお世話になってから五年目になりました。

保護者会にはなかなか参加できず、何をすればよいのかまだわかりませんが、先生方や保護者の方々と協力しながらよりよい活動が出来るようにがんばりますので、みなさんのご協力をお願いします。

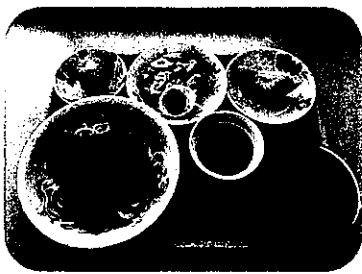
今年度はコロナも5類移行で活動や行事も今まで通りとはいきませんが昨年よりもやりやすくなると思いますので、先生方とも話し合い、できるだけ多くの行事を行いたいと思いますので、保護者の方のご意見がありましたら、遠慮なくお話しください。

とはいうものの、感染リスクがあるため砺波学園ではマスクの着用をお願いしています。子どもたちにはまだまだコロナ前のようにとはいきませんが、元気に活動できるように活動できるように保護者の方にはなにとぞご協力をお願いいたします。ご意見等があれば先生方を通じてでも構いませんのでお聞かせください。

縁の下の力持ち！

子ども達の食の安全・安心を支えてくださっているのが厨房の調理員のみなさんです。学園と東校の給食を一年三百六十五日、休むことなくこしらえるだけでなく、食べやすく加工するなど、きめ細かい配慮をいただいています。

また、旬の食材を使った献立はもちろん、自分でおかずなどを選べるセレクト食事や『これ、食べてみたかったあ〜』という思いをかなえてくれるリクエント献立、ふるさと富山の特産物を用いた郷土料理などの特別メニューでも子ども達がおいしく楽しく食事できるように常に工夫して調理いただき、子ども達への食育の一端を担っていただいています。



新型コロナウイルス感染症2類↓5類へ、

5月8日から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の扱いが2類から5類に引き下げられました。それに伴い、学園でも帰省日数の制限の解除や日中一時・短期入所の受け入れ再開、マスク着用の緩和など少しずつ新型コロナウイルス感染症流行前の日常に戻りつつあります。行事等についても新型コロナウイルス感染症防止対策として3年間は中止や縮小して実施しておりますが、今年度からは以前の行事の形に近づけて再開していく予定です。とは言え新型コロナウイルス感染症はなくなつたわけではありません。引き続き感染対策を行いながら支援していきたいと考えております。

学園の苦情解決及び事故対応の状況について

令和5年2月、第三者委員の方との懇談会を実施しました。事故状況と対応・再発防止及び、被措置児童等虐待防止に関する取り組みについて報告しました。委員の方からは被措置児童等虐待防止に関して貴重なご意見をいただきました。また、新型コロナウイルス感染症対応について情報交換を行いました。

事故	育成班	9件
	療育班	11件
	計	20件
苦情	1件	

(令和4年6月~令和5年5月末)

※令和4年度、二年に一度の満足度調査も実施しました。

善意の窓 (敬称略)

◎寄贈

- ・ 砺波市更生保護女性会
- ・ 榊檀山ヘルスボランティア
- ・ とやまガス体エネルギー普及促進協議会
- ・ 富山県善意銀行
- ・ カナカン株式会社
- ・ 富山福祉短期大学 共創福祉センター 恵子
- ・ 富山県立砺波工業高校吹奏楽部
- ・ 安川営農組合
- ・ 県庁職員労働組合
- ・ 澤田グループ

◎ボランティア活動

- ・ 庄東地区民生委員・児童委員協議会(除草)
- ・ せんだん(縫い物・除草)
- ・ 砺波市更生保護女性会(掃除活動)
- ・ ニュークリスタル(バンド演奏)
- ・ 中島陸美(エレクトーン)
- ・ 田林仁美(歌・楽器)
- ・ 齋藤真知子(ひなまつり)
- ・ 福山自治会 福澤武邦
- ・ 福山地区環境保全推進委員会 福田 稔也
- ・ 前田由美子(詩吟教室)



ほのほの にこにこ
元気いっぱい
み~つけたっ!



編集後記

長く続いたコロナ禍も終わりへと近づき、以前のような日常へと戻りつつあります。これまで行事や活動は縮小され、思うようにいかないことも多々ありましたが、子どもたちはいつでも元気いっぱい毎日を送っています。この広報を通して子どもたちの素敵な笑顔をお届けできれば幸いです。

岩田 記

※定期的にミュージックケア、発明クラブ、エアロビ教室、スポーツ教室、ボールペン習字教室、詩吟教室、子ども会役員会、誕生会、避難訓練、心の発達相談を実施しています。

※お花教室が不定期にあります。

※今年度の杉の子祭は新型コロナウイルスの感染に注意して、少し内容を充実して行う予定です。

4月 3日	新任式
5月 30日	子ども会役員選挙
7月 5日	七夕のつどい
8月 1日	夏季特別体験(育成班)
8月 3日	夏季特別体験(療育班)
8月 8日	黒部学園との交流会
9月 9日	砺波工業高校吹奏楽部演奏会
10月 20日	となみセントラルライオンズ交流会
10月 7日	杉の子祭
12月 22日	年末お楽しみ会
1月 2日	園長座談会
2月 2日	節分の集い
3月 1日	ひなまつり
3月 29日	退任式、離任式

年間行事予定